

2016年度九州沖縄地区合同シンポジウム（開催予告）
「九州沖縄地区における現場海洋観測とその連携研究」

共 催：一般社団法人水産海洋学会，日本海洋学会西南支部
日 時：2016年12月9日（金） 10：00～17：00（予定）
場 所：鹿児島大学水産学部
コンビーナー：中村啓彦（鹿大水），滝川哲太郎（長崎大院水産・環境），小針統（鹿大水），
加古真一郎（鹿大理工）
基調講演：1～2題、40～50分程度
一般講演：8～10題、1題15～20分程度（講演者数により変更する場合があります）
参加登録料：無料

開催趣旨：大学や官庁・試験研究機関では、練習船・調査船等を用いた海洋観測や、海洋レーダ等のリモートセンシング、定期フェリー・定点観測等の海洋環境モニタリングを行っている。しかし、これらの機関が、必ずしも連携して観測を行っているとは限らない。本シンポジウムでは、これらの観測の現状を把握するとともに、水産、海洋エネルギー、海洋プラスチック汚染問題等に関する今後の連携研究の可能性を考える。さらに、物理－化学－生物学にまたがる横断研究、数値モデルを組み合わせた研究にも着目する。

黒潮は東シナ海から九州南方のトカラ海峡を通過し太平洋の日本南岸を流れる。対馬暖流は、東シナ海から対馬海峡を通過し日本海へ流入する。そして、これらの海流は、低緯度から高緯度へ様々な物質を運んでいる。運ばれる物質には、栄養塩・プランクトン・卵仔稚魚が含まれており、流動場などの海洋物理研究と化学・生物学および水産学との連携研究が望まれる。一方、漁業者の立場からは、安定かつ効率的に漁獲物を得るために、より現実的な漁海況予測の構築・情報提供が望まれている。同様に、海洋エネルギーや海洋プラスチック汚染問題の分野においても、現実的な海況予測に基づく効果的な政策立案が望まれており、行政と大学・試験研究機関等による分野横断的な連携研究が必要である。このようなニーズに応えるためには、時空間的に密な現場観測データを同化した数値モデルが必要となってくる。このような背景から、本シンポジウムを通じて、現場海洋観測とコラボレーションした様々な連携研究が進展・強化されることを期待したい。

一般講演の募集要領

- ◇締切：2016年9月26日（月）必着
- ◇必要事項：講演題目、共著者を含む講演者所属・氏名、E-mail アドレス
 - ・一般講演の採否結果は、9月末までに通知します。
- ◇申込先：〒852-8521 長崎市文教町1-14 長崎大学大学院水産・環境科学総合研究科 滝川哲太郎
電話：095-819-2810, FAX: 095-819-2799, E-mail: tetu@nagasaki-u.ac.jp

講演要旨

- ◇締切：2016年11月18日（金）必着（送付先は講演申込先と同じ）
- ◇書式：日本海洋学会の研究発表大会時の講演要旨に準ずる。
 - ・ワードプロセッサを用い、A4版用紙2枚以内。
 - ・マージンは、上下に30mm、左右に20mmで設定。
 - ・研究題目、発表者、所属、キーワードを上段（30mm程度）に記入。
 - ・本文は2段組が望ましい。